

## 2・16 損保産業と平和を考える大学学習講演会② 『報道されなかったイラク戦争』

フリージャーナリスト

イラクの子どもを救う会代表 西谷 文和さん

既報のとおり、2月16日(金)本町商工会館で『損保産業と平和を考える大学学習講演会』を開催しました。西谷文和さん(フリージャーナリスト・イラクの子どもを救う会代表)は、命がけで現地ルポした映像をもとに「報道されなかったイラク戦争」の講演を行ないました。当日、西谷著書「戦争あかん」シリーズ①は50冊またたくまに完売し、会場で訴えたイラク訪問カンパも7万数千円集まりました。

講演後の懇親交流会は70名が参加、西谷さんも出席され大いに交流を深めました。

松浦章さん(日新火災出身・兵庫県立大学大学院)の講演「今こそ損保の社会的役割の発揮を」の要旨は前号(83号)に掲載しました。

〔講演要旨〕

### マスコミが報道しないイラクの現状

みなさんには3度目の講演となりますが、DVDの上映とあわせてお話しします。今イラクは一日100人単位で殺されており、JR・尼崎の事故が毎日起こっていることとなります。アメリカの空爆で建物がガレキになり、5歳の子どもがクラスター爆弾の不発弾で遊んでいて右目が奪われ、サッカーをしていた子どもが右足を失いました。また核施設に入った盗賊がドラム缶を奪いその中に詰まっていたウランを川に捨てたために川が汚染。その水を飲んだ家畜や野菜も汚染されました。放射能の影響で異常な子どもが生まれています。村は激戦地のため、国連もNGOも医者もジャーナリストも入れません。爆弾の戦死者はカウントされていますが、負傷者は何万、何十万になっています。

### フセインは何をしたのか

イラン・イラクの国境地帯のハラボジャという町は、毒ガスを使用され一瞬にして虐殺されています。毒ガスは空気より重く下に溜まり、農業や川原でいた人は催涙ガスやマスタードガスを吸い込んでその場で倒れ死んでいます。フセインは大量破壊兵器を使用しました。アメリカがもし本当に正義というならこの時点でフセインをたおしていれば筋は通るが見逃しています。それから十五年が経ち2003年には毒ガスも核兵器もありませんでした。ところがブッシュ大統領はイラクに大量破壊兵器があるといってイラクを攻撃し今もつづいています。ウソだったことが明らかになりました。

た。フセインは148人のシーア派の人を虐殺したという理由で死刑となりました。ハラボジャの大虐殺の真相は明らかにされていません。今度訪問して新たな映像を撮影してきます。

### **クラスター爆弾の恐怖**

クラスター爆弾についてレバノンの映像から見ます。去年レバノンとイスラエルが戦争を始め、イスラエル軍はクラスター爆弾をバラ撒きました。戦争終了前3日間で120万発にものぼり、レバノン南部は大変なこととなりました。クラスター爆弾の親爆弾は空中で爆発し、数百個の子爆弾がバラバラと飛び散り、その中にパラシュートをつけた爆弾が不発弾となります。除去するのに数年かかるといわれています。アメリカ製のクラスター爆弾をイスラエルが使用しているのに何の制裁もありません。

### **兵士の遺体は何を物語るか**

イラクは砂漠の国です。掘り返すと白骨化した兵士の遺体が出てきます。正規のアメリカ兵はカウントされ持ち帰り葬式してもらえますが、他国から奪われた兵士はそのまま捨てられるからです。民間の企業が南アフリカ・ネパール・フィージの貧しい国から若者を雇って戦争させています。民間の雇い兵がイラクで戦っており戦死すれば持ち帰らず遺体を埋めてしまうのです。テレビではまだオンエアされていません。戦争が民営化され、イラクに駐留する軍隊でアメリカの次に多いのが傭兵です。戦争で大儲けしようとする人がいます。

### **民間戦争会社の仕組みとは何か**

戦争会社PMC(Pはプライベートで民間。Mはミリタリーで軍事。Cはカンパニー)はどんな会社か。実は親会社があり、カーライルグループという世界中の大金持ちが儲け先を求めて投資をする会社です。役員はブッシュの父で今は引退しているがかつては役員でした。ブッシュ大統領が戦争をおこすと民営化され、パパ・ブッシュが儲かる仕組みです。石油で大儲けしたサウジアラビアの大金持ちも入っており、ビンラディン一族もそうです。つまり、9・11テロの前からビンラディン一族とブッシュ一族は同じ会社の役員と大株主で仲間でした。

### **ブッシュとフセインの危険なつながりを検証する**

ブッシュとフセインの危険な繋がりについて述べます。フセインに毒ガスをまかれた町、ハラボジャの市長が、広大な草原を案内しここに平和公園を作りたい。ヒロシマ・ナガサキのモニュメントを作り、日本とハラボジャを結びたいとの熱意を語りました。フセインは大量兵器を持ち使用したのに、アメリカはなぜこの時フセインを見逃したのでしょうか。

### **中東の歴史を振り返るー**

#### **アメリカとフセインは仲良かった**

中東の歴史を振り返れば、1979年にサダム・フセインがイラク大統領に就任。次にイラン・イ

スラム革命の勃発です。アメリカは石油国がイスラム化するのを防ぐためにフセインを利用、イラン・イラク戦争が始まりました。この時世界最大の少数民族であるクルド人が立ち上がったため、フセインは毒ガスを使用し、ハラボジャの悲劇がおこったのです。イラン・イラク戦争は終了しましたが、「クエートを攻めても黙っているよ」と悪魔のささやきに騙されたフセインは次にクエートを侵略しました。ところが、アメリカは手のひらをかえし「クエートを侵略するとは何ごとだ。お前は独裁者だ」として、多国籍軍が形成され戦争に突入しました。

## 9・11事件の「ナゾ」を考える

最近9・11事件について怪しいと言われています。ペンタゴンに地上するすれにボーイングが飛んできて横から当たったという発表です。両翼40メートルもあるのに衝突箇所は小さな穴しか開いていない。さらに怪しいのは激突現場からはエンジンもブラックボックスも乗員の遺体も出ず真相はわかりません。WTCビルの疑問も出ています。二つのビルがわずか十秒で見事に垂直に崩壊しています。さらに疑問が深まるのは六時間後、飛行機も当たっていないWTCビル1・2の崩壊した直後に何故かヘリコプターが飛んでいるという疑問もあります。この映像はテレビでは一切報道されていません。

## 「簡単には、だまされないぞ」

戦争とは結構嘘で始まっていることが多いのです。大本営発表というのも嘘ばかりで「日本は勝っている」「最後は神風が吹く」といって日本人は騙されて戦争にかりだされました。イラク戦争も「大量兵器がある」といって嘘で始まった。ベトナム戦争もトンキン湾事件もアメリカのでっち上げでした。今回一番大事な憲法、特に憲法九条が変えられようとしています。政府は国民投票でだましにかかってくるでしょう。「北朝鮮は危ない国だ」と報道すればするほど、国民は「軍隊を持って備える」と思い込まれます。今日の講演と見ていただいた映像を口コミで広げていただきたい。そして「憲法を変えない」「戦争する国にしない」ために力をあわせて頑張りたいと思います。

大阪損保革新懇のみなさんの奮闘を期待します。

〔文責 大阪損保革新懇事務局〕